正解：e

解説：尿検査では尿潜血が（2＋）です。CT 画像では写真中央に高吸収の結石があり、その上方には拡張した尿管を見ることができます。よって診断は尿管結石の嵌頓です。今回は尿管結石での鎮痛薬の使い方を説明します。

a. ブスコパンは抗コリン薬で、副交感神経を亢進させるアセチルコリンの作用を抑えることで、消化管の運動亢進に伴う痛みや痙攣、下痢などを抑えます。従って、消化管の過剰な運動が原因の場合にはブスコパンが第一選択薬となります。尿管結石の嵌頓に際しても、収縮している尿管平滑筋の弛緩には働きますが、あくまで補助薬剤として使用すべきです。

b. アセリオはアセトアミノフェンの静脈注射薬で、脳の体温調節中枢や中枢神経などに作用して熱を下げ、痛みを抑えますが、この場合の第一選択薬ではありません。

c. ソセゴン（ペンタゾシン）はオピオイド受容体に作用することで強い鎮痛作用があります。NSAID で疼痛の緩和が得られない場合は第二選択薬となります。ただし、吐き気、めまいなどの副反応もあるため、投与後は数時間の安静が必要です。

d. 救急現場での尿管結石による疼痛コントロールの第一選択は非ステロイド性抗炎症薬(NSAID)です。プロスタグランジン(PG)の合成酵素（COX）を阻害することにより PG の生合成を抑制することで効果を発揮します。しかし、腎機能低下、アスピリン喘息、消化管潰瘍、そしてうっ血性心不全を有する患者に対する使用は禁忌です。ロキソニンは NSAIDs の一種の内服薬ですが、本例の様に嘔気、嘔吐のある患者では内服薬の処方は控えるべきです。

e. インドメタシン座薬も NSAIDs の一つです。この症例の様に嘔気や嘔吐のある症例には NSAIDs の座薬が第一選択薬となります。

参考文献：尿路結石症診療ガイドライン 2013 年版（MINDS）